



欄間など既存のしつらえを活用しつつ、耐久性を上げるために、土間は防湿のためのコンクリートを全面的に打設



写真は、現在進行中のリノベーションしている物件。元はお母さまの実家

改修前。家の中央に座敷があり、3間連なっていました

新たな価値を生む

所に3部屋も連なっていましたので、現在の生活に



「あたたかい住宅」を目指し、壁や天井にも断熱材を入れました

載予定

(次回は10月19日掲
て、ご紹介します。

リノベーションするか、せずに建て替えるか。その判断基準は、法的な制約、心理的要因、構造的条件などさまざまです。次回はそのあたりについて、ご紹介します。

勝野大樹 リノベーションで 住み継ぐ暮らし

1

既存の建物を大規模な改修工事で一新する「リノベーション」という言葉が広く知られるようになりました。厳密な定義はありませんが、単なる修理や修繕にとどまらず「既存の建物の価値を最大限に引き出し、新たな価値を付加し、建物の価値を新築時よりも上げる工事」といえます。これから数回にわたり、私の事務所で設計した実例を通して、住宅のリノベーションに関するさまざまなエピソードを紹介します。新築工事費が上昇している昨今、家づくりに悩む方、リノベーションを考えている方々にとって、参考になれば幸いです。

で、完成後は息子さんが住むことになります。

建物 자체は、築40年近くを経て、内外部とも仕上げはそれなりに傷んでいま

したが、構造は当時の基準でしつかりと造られていきました。

間取りは、昔ながらの座敷が家の中央の一番当たりの良い場所に3部屋も連なっていましたので、現在の生活に

合わせて大幅な変更を行って、断熱性能も十分に上げることで「あたたかい住宅」を目指しています。

この建物がリノベーションを選択した背景には、

元の面影を残しつつこれからも家族に長く住み継いでほしい」というお母さまの「想い」がありましたので、「デザインは、欄間など既存のしつらえを活用しています。



一級建築士 勝野 大樹

【かつね・ひろき】 プロフィル

1978年、上伊那郡辰野町生まれ。県立伊那北高校理数科を卒業後、明治大学大学院理工学研究学科で博士前期課程を修了。2003~09年は入江経一+PowerUnitStudio、10~18年は長野県内の設計事務所に勤務。18年、伊那市に勝野建築事務所を設立。現在は毎月、「無料家づくり・リノベーション相談会」を実施中。ホームページなどから気軽に問い合わせを。

勝野建築事務所
ホームページ(ORコード)
<https://ktn-a.com/>

